

大阪府済生会中津病院形成外科を受診された患者さんへ

当院形成外科では下記の臨床研究を行っています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に使用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究名	鼻骨骨折整復固定術におけるメロセルによる内固定の有用性及び安全性の検討
当院の研究責任者	形成外科 野村健志
研究の概要・背景・目的	鼻骨骨折は、顔面骨骨折の中で最も頻度の多い骨折です。手術は、非観血的に鼻腔内から整復を行う方法が一般的で、術後は外固定と合わせて、鼻腔内に内固定を行うことで整復部を安定させることが一般的です。内固定に用いる医療材料は種々のものが用いられていますが、それらの有効性の比較を行った研究は少なく、現在までに詳細な検討はされていません。当院では、鼻骨骨折に対して非観血的に整復固定術を受けられた患者様を対象に診療録調査を行い、内固定に用いられる医療材料の安全性および有用性を検討します。
調査データ 該当期間	2010年1月1日から2022年12月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者様	上記期間内に当院で鼻骨骨折整復固定術を受けられた方。
研究方法	上記期間内に当院で鼻骨骨折に対して非観血的に整復固定術を受けた患者さんの電子カルテの診療記録、画像データを利用します。 鼻骨骨折整復後、メロセルによる内固定を行った群と、タンポンガーゼによる内固定を行った群を統計的に比較し、それぞれの固定材料の有効性と安全性を比較・検討します。
個人情報の取り扱い	利用する情報には、氏名や住所や臨床写真等の患者さんを直接特定できる個人情報は含まれません。研究結果は学会発表や学術雑誌への投稿を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に際して、経済的な利益関係や利益相反はありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、診療情報・画像データが当該研究に用いられることを、患者さんもしくは患者さんの代理人の方がご了承いただけない場合は、研究の対象としないので下記の連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、既に研究結果が論文などで公表されていた場合は、提供していただいたデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 担 当 者：形成外科 野村健志 電 話：06-6372-0333